第６回　高知県史編さん編集委員会議事概要

日時：令和５年６月 15 日（木）　13:00 ～ 16:00
場所：高 知 県 立 公 文 書 館　３ Ｆ　会 議 室

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、井上委員、岩佐委員、大門委員、岡本委員、
小幡委員、佐藤委員、鋤柄委員、常光委員、津野委員（リモート）、松田委員、
三浦委員、三宅委員（リモート）、渡部委員
事 務 局：中内課長、山﨑企画監兼室長、土居室長補佐、目良チーフ、紀ノ國主幹、
小林主事、弘田主事、坂本専門員、稲野会計年度任用職員、
長尾会計年度任用職員、野本会計年度任用職員

１　開会

２　挨拶
藤井委員長より開会挨拶

３　協議・報告事項
（１）前回までの編集委員会の概要について
資料１について、事務局より説明。
※事務局新任者紹介含む

各委員、質問等なし

（２）各専門部会の活動状況について
（近世部会・近代部会・民俗部会・古代中世部会・現代部会）
資料２について、各専門部会長より説明。
活動状況に加え、各専門部会からなされた追加報告並びに各委員等の意見を記載。

（近世部会）
各委員、質問等なし

（近代部会）
【各委員主な意見】
・寺石正路関係資料並びに札所石造物について、情報共有をお願いしたい。

【報告事項】

○　近世・近代移行期に関わる資料調査を実施する両部会合同の作業部会「維新班」の設置及び同名称をしてよろしいか。

⇒　（事務局）

・専門部会を横断的に進める作業チームと想定。要綱の作成等は必要なく、編集委員会の場で報告していただき、異論なければ特に問題はない。

（各委員）

・分野や時期に応じ、随時各委員に参加及び編纂に関わってもらう必要がある。

・活動予算は両部会の予算より拠出されるが、県外への資料調査を想定し、旅費等の配慮をお願いしたい。

・当分野の研究は幅広く、人員を要する。県内関連施設の専門研究員を執筆委員や調査協力員とし、協力を願うことが可能か。体制について検討いただきたい。

（民俗部会）

【各委員主な意見】

・塚については、考古学において墓として関わりがある。情報共有いただきたい。

（古代・中世部会）

【報告事項】

・出版印刷に関する状況が急速に悪化している。紙からデジタル媒体への転換や予算的な問題等、改めて検討いただきたい。

⇒　情報を集約し、次回以降の編集委員会で取り上げていただきたい。

【各委員主な意見】

・報告の中にあった調査予定計画に直接関連する、歴史民俗資料館の改修工事について、事務局より確認いただきたい。

⇒　資材不足の影響により、工期が延長される可能性もある。情報収集し、調査に着手できる時期等について、改めてご報告させていただく。

（現代部会）

各委員、質問等なし

（３）来年度以降に設置予定の専門部会について

資料２について、担当専門部会長より説明。

【各委員主な意見】

・県史全部会が共通するテーマとして、「災害」、」「遍路」、「海」の３つが挙げられるのではないか。共有方法についての検討や共有意識を持っておくべきではないか。

⇒　各部会、主に本編に関わってくるテーマである。取扱い方法等について、編集委員会等で随時報告を願いたい。

（４）資料情報の共有（クラウド）について

資料３について、事務局より説明。

【各委員主な意見】

・導入初期はクラウド全体へのアクセスやアップロード・ダウンロード等の権限設定は可能な限り限定的に進め、徐々に見直していただきたい。事務局にて責任者を配置し、システム管理を徹底してほしい。

・将来的には、各部会毎のフォルダだけでなく、部会横断的な共通フォルダを作成してほしい。

・具体的にデータが共有されてみないと、使用手順や管理方法がイメージできない部分がある。検索性を備えたデータにするためには、様々な点で協議が必要。

本年度７月から８月を目処にクラウドサービスを活用したデータ共有の展開について、承認される。

（５）第１期の成果をまとめた冊子等の刊行について

資料４について、事務局より説明。

【各委員主な意見】

・札所詳細調査検討委員会における刊行された報告書内容を令和７年度刊行予定の第１巻取扱い分野に追加できないか。

・少し内容が重たく、一般県民向けの冊子ではなく、報告書のイメージが強い。また、現計画では５年に１度の刊行となっており、「新たな高知県史へのいざない」という仮タイトルとはそぐわない内容に感じる。配布対象について、検討する必要もある。

⇒　各委員に対し、配布対象やページ構成等の刊行冊子についての意見を求める。
以下、各委員からの意見を箇条列記。

〈内容・目的〉

・県民の方々が関心をもつ、これはわかったというキーワードが必要。

・コラムや調査こぼれ話等は一過性であるため、HP 等別媒体での展開を。
・現構成案は歴史に関心を持つ高校生が理解できるレベルでなく、アンバランス。
・文化広報誌「とさぶし」や県史研究、研究紀要等の棲み分ける必要がある。
・ニュースレターや通信誌的な冊子との関連性、図録的な形態はどうか。
・刊行される資料編や本編の宣伝をするような在り方はどうか。
・既存資料の展開より、新発見の要素を強調してみてはどうか。
・災害や台風といった興味を引く項目を取り入れてみてはどうか。
・若い世代は自身の宗派を知らない。地域の神社を取り上げてみてはどうか。

〈ページ構成・形態〉
・A4 版、ページ数は 16 から 32P とし、資料を大きく見せるスタイルはどうか。
・見開き半分はともかく、１ページは資料を画像を使用し取り上げるべき。
・毎年刊行するのであれば、ページ数は 30 から 50 P 程度でどうか。
・手に取りやすく、よりコンパクトな形がいいのではないか。
・文字数は少なめのスタイルが望ましい。

〈配布先・対象〉
・博物館等の県内施設へ配布し、利用者が自由に手に取れるスタイルはどうか。
・HP や Twitter 等のデジタル媒体を利用した普及が効果的ではないか。
・中高生に思い切ってターゲットを絞ってみてはどうか。
・中高生が興味を持つ冊子は、一般の方の関心を寄せるのではないか。
・中高生のレベルを引き上げるものにするか、標準的なものにするか。
・若者だけでなく、年配の方にも見てもらいたい。

〈刊行頻度〉
・現計画で進めると計４冊となるため、毎年の刊行はどうか。
・５年に１度の記念冊子として発刊してみてはどうか。

一般の方を対象とするならば、もう少しソフトな編集が望ましい。本委員会の意見を踏まえ、次回の編集委員会までにたたき台を改めて作成する。

（６）編集方針の作成について
資料５について、事務局より説明。

【各委員主な意見】
・執筆項目が先にあり、対応する資料を収集するという考えが間違い。資料を悉皆的に

様々な部会・観点から集め、その成果をもって通史を書くという手順と異なる。

・出発点は資料。現案の場合、後任へ迷惑や負担をかけることになる可能性が高い。

・とても現段階で本編の項目を拾い上げて編集することは難しい。高知県の特質を理解した上で、本編などの構成を考える必要がある。近代については、資料編②の項目編成と資料調査について、報告が可能。

・大枠が必要なことをわかるが、拘束されるものであってはいけない。高知県のもつ特色について、従来にはない新しい視点から斬新に打ち出していかないとよいものは作れない。このためには、資料の集積と調査を十分に行う必要があり、順序が逆ではないか。

・発足直後の部会は、新鮮味がない概説を提示することになる。資料発掘や聞き取りをして新しい構成を考えようとしているときに、自分たちの手足を縛る形になる。どこかの段階で本編の構成を示す必要はあるが、今やるべきだとは思えない。

・編集方針案を説明する際には、過去の通史にはこういった項目があるといった形での報告を求める。

・資料 2-6 にて示されたスケジュール案の提示はどうか。

・次に出す刊行物や現在の調査内容については示すことが可能。昨年度設置された 3 部会（近世・近代・民俗）にて 1 枚程度でいいのではないか。

（事務局）

・一度作られた編集方針に、一切揺り動かしがないのはありえない。今後の調査や編集の過程で新たなことが判明した際には、変更していくことを説明していく。

・ただ、調査をするにあたり、調査対象は一定説明し、無計画でないことを示す必要がある。

現案については、未承認。今後の検討課題とし、次回は進捗スケジュールを加味した案を提示し、改めて議論することとなる。

（7）令和 5 年度予算の執行計画について

第 5 回高知県史編さん編集委員会と同内容であるため、割愛。

（8）その他

報告事項等なし

4　閉会

（以上）